

## マタイ2：13-23「クリスマスの悪い知らせ」

(サタンは呪われているが、まだ滅ぼされていない)

2:13 彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現れて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」 2:14 そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、 2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した」と言われた事が成就するためであった。 2:16 その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年齢は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。 2:17 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。 2:18 「ラマで声がする。泣き、そして嘆き叫ぶ声。ラケルがその子らのために泣いている。ラケルは慰められることを拒んだ。子らがもういないからだ。」 2:19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現れて、言った。 2:20 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさい。幼子のいのちをつねらっていた人たちは死にました。」 2:21 そこで、彼は立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に入った。 2:22 しかし、アケラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行くとどまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちのいた。 2:23 そして、ナザレという町に行き住んだ。これは預言者たちを通して「この方はナザレ人と呼ばれる」と言われた事が成就するためであった。

## 導入

これまでのマタイの福音書の学びで、クリスマスの話をおおかたご紹介しました。

その中で、クリスマスについて一番大切なことをふたつ学びました。

まず、神が人となってくださったことです。このお方は、完全に人間でしたが、同時に完全に神であられました。

種はマリヤという女性の胎内に宿りました。彼女は、神によって特別な任務を託されました。

次に、神が人となられた目的についてです。その目的は、この世の救い主となられるためです。イエスという名は救い主を意味します。

人類にはなぜ救い主が必要なのでしょうか。

これは非常に重要なことです。というのも、ほとんどの人が、救い主を必要としていることに気づいていないからです。

神が6日間でこの世をお造りになってから約7,000年後、神は男をご自身に似せてお造りになりました。神は男に、たったひとつの決まりごとを除いてはまったくの自由をお与えになりました。その決まりごととは、善悪の知識の木の実を食べてはならないというものでした。神によって与えられたたったひとつの規則を人が破ると、人は肉体的にも霊的にも死を経験するようになります。

神は、男の助け手であり友とするべく、女を男から造られました。

残念ながら、ルシファーという墮天使（イザヤ14：12-15、エゼキエル28：11-15参照）がエバを惑わし、神の愛を疑うように仕向け、神に背いて禁断の実を食べようそそのかしました。エバはアダムにも食べるよう説得し、アダムはその実を食べてしまいました。

その結果、ルシファーは神に呪われ、アダムとエバは、禁断の実を食べると死ぬとアダムに言われたとおり、死の罰を受けました。

ローマ5：12によると、アダムの不従順の結果、罪がこの世に入り込み、すべての人に広がってしまいました。つまり、この世に生まれたすべての人は、罪の性質を持っているということです。それは、今日ここにいる私たち全員にも当てはまります。

神は100%聖なるお方ですから、罪を許容することはできません。ですから、人類の罪を裁かなければなりません。

しかし、神は義なる神であられると同時に、愛の神でもあられます。神はご自身の愛とあわれみから、罪深い人類を贖う救いのご計画を与えてくださいました。この救いのご計画は、神の御子イエス・キリストという形でやってきました。

イエスがこの世に来られたのは、罪深い人類を救う神のご計画という具体的な目的のためです。

イエスは、赤ちゃんから成長し大人になり、私たちの罪の罰を自ら負って惨い死を遂げられました。

ヨハネ3：16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

今年のクリスマス、自分の罪に対する神の罰から救われたいなら、サタンやルシファーが心にささやくことではなく、神の御子イエス・キリストをとおして示された神の愛を信じなければなりません。

自分はそれほど罪深いと感じないかもしれませんが、聖なる神と対面したら、誰でも必ずイザヤのように反応するに違いありません。

イザヤ6：1-5

6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」6:4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の【主】である王を、この目で見たのだから。」

ですから、クリスマスとは、私たちの救い主イエスが神の唯一の救いのご計画としてこの世に来てくださったそのご降誕を祝う時です。

マタイの福音書は、クリスマス話の続きを教えてください。

今日のメッセージは、クリスマスの悪い知らせと呼ぶことにしました。クリスマスに悪い知らせなどあるのでしょうか。

残念ながら、毎年クリスマス時期に悪い知らせがあります。それは、サタンがまだ元気で、神のご計画の邪魔を常にしようとしていることです。

今日の個所は、クリスマス時期には難しい個所ですが、天使が2度登場しているので、天使についての真実を皆さんにお伝えしたいと思います。これは、皆さんにぜひ知っていただきたい教えです。

では、今日の個所の学びを始めましょう。今日は、次の3つのことがわかります。

1. イエス、守られる。(13-15節)
2. 2歳以下の子どもたちが殺される。(16-18節)
3. イエス、イスラエルに戻る。(19-23節)

#### 1. イエス、守られる。(13-15節)

先週お話した東方の博士たちが、イエスとヨセフとマリヤの住む家を去ると、主の使いが夢でヨセフに現れて言いました。

「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、ここにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」

ヨセフは御使いのことばにすぐさま応じ、誰にも見られないように夜のうちにマリヤとイエスを連れてエジプトに向かいました。

長旅になるので、すぐに出発しなければなりませんでした。

マリヤとヨセフが旅するのは約426キロメートル、神戸から東京ほどの距離です。

当時、もちろん新幹線はありませんでした。交通手段は、馬からくだかロバでした。おそらく、ロバ2頭に乘ったのではないのでしょうか。

これは、神の予想外のことではありません。神はすべてをご存知でした。

ホセア11：1で預言者ホセアは言います。「…わたしの子をエジプトから呼び出した。」

マタイはユダヤ人でしたから、旧約聖書の預言をよく知っていました。それで、この個所にある3つのできごとをすべて旧約聖書の預言とつなげることができたのです。

ヨセフとマリヤは、イエスがどんな危機に直面しているか知る由もありませんでした。

主の使いが知らせてくれなければ、危険を察知することはできなかつたでしょう。

このことから、天使が働いてくれていることが私たちにとっても大きな励みとなります。

ここで、次の悪い知らせに話を進める前に、天使について記された聖書的事实をご紹介します。

1990年代前半、天使に対する関心が高まり、ソフィー・バーナムの著書は50万部以上の売り上げを記録しました。しかし、この本には個人の体験が数多く記されており、聖書に基づいたものではありませんでした。そのような体験をした多くの人が、実は御使いと出会ったのではなく、サタンの使者である墮天使と出会っていたのです。

サタンは光の御使いに変装できることを忘れてはいけません(コリント第二11：14)。

ですから、天使についての「真実」を知りたいなら、唯一信用できる資料は聖書です。

1. イエスは、天使の存在を信じておられた。(マタイ18：10)
2. パウロを始め、新約聖書の著者たちも天使を信じていた。(テサロニケ第二1：7、コロサイ2：18、エペソ1：21、ペテロ第一3：22、ユダ9)
3. 天使は被造物である。(コロサイ1：16、ネヘミヤ9：6)

4. 天使はとてつもない力の持ち主である。（詩篇103：20）ソドムとゴモラの二都市を破壊したのは天使たちである。（創世記19章）
5. 天使は数え切れないほどたくさんいる。（ヘブル12：22）
6. すべての天使はもともと善の存在として造られたが、その中に、ルシファーを始め、罪を犯したものがいた。（ペテロ第二2：4、ユダ6）
7. サタンに属する使いの軍勢がいる。（マタイ25：41）

これらの墮天使たちは、以下のようなことをすると、聖書は語ります。

神のご計画の邪魔をしようとする。（ダニエル10：10-14）

神の民を苦しめる。（ルカ13：16、マタイ17：15-18）

サタンの目的を果たす。（マタイ25：41、12：26-27）

神の民の信仰生活を妨げる。（エペソ6：12）

神の民を欺こうとする。（サムエル第一28：7-20）

では、神の御使いの働きはどうでしょう。

神の御使いには天での任務があります。（イザヤ6章、黙示録5：11）

同時に、地上での任務もあります。

おもに、御使いたちは地上で神の民に仕えます。

その主要な役割は、次に挙げる3つです。

1. 信徒を導く。（使徒8：26）
2. 神の民を励まし、元気づける。（列王記第一19：5-8、マタイ4：11、ルカ22：43）
3. 神の民を守り、救いだす。（ダニエル6：22、使徒5：19、12：8-11）

また、教会と信徒の証人でもあります。テモテ第一5：21、コリント第一4：9、11：10参照。

神の御使いは今も働きを続けているのでしょうか。もちろんです。

キリスト教の歴史上、個人や国が祈りをもって神に助けを求めると、神は御使いの働きによって応えてくださることが多々ありました。

第二次世界大戦中、当時の英国王は国民全体に祈るよう呼びかけました。

教会は、神に助けを求めて祈る人々でいっぱいになりました。

当時、ヒトラーが優勢に見えました。

しかし、神は人々の祈りに応えてくださいました。第二次世界大戦の勝利にもっとも貢献したのは、イギリス空軍によるバトル・オブ・ブリテンだと言われます。

この戦いからある実話をご紹介します。

これは、テリー・ロー著「天使についての真実」から引用させていただきます。

「1940年9月のある日曜日の朝、ウィンストン・チャーチル首相と軍事顧問たちは、イギリス南部の機密作戦本部で、電子戦況図の光を見つめていた。

先を危ぶまれるほどの物資不足の中、諜報機関からの情報により、ドイツ軍がイギリス上陸作戦を進めようとしていることがわかった。

のどかな日曜の朝に、ナチスの戦闘機が四方からやってくるという警告が鳴り響いた。

こちらから40機、あちらからも60機、続いて80機が編隊を組んで飛んできた。しかも、それは始まりに過ぎなかった。四方八方からやってきた戦闘機で、空は埋め尽くされてしまった。

このとき、イギリス南部を守っていたのはたった25戦隊だった。

我々の機体はすべて撃ち落とされ、戦いに敗れるだろうと思われた。

そのとき、突如としてドイツ軍機185機が撃ち落とされ、残りの機体が退却していったのである。

論理的予想に反して、イギリス空軍は勝利した。

イギリス軍の勝利は、説明のつかない現象である。

捕虜となったドイツ軍パイロットは、後にこのように語っている。

『あれほど多くの機体をどこから集めたのだ？ドイツ軍より数が多かったが。』

ダウディング卿は、死んだパイロットの操縦する機体が飛び続けたという実話を語る。そのパイロットがイギリス軍に属した記録はなく、天使だったと思われる。

戦時中、英国国民は、毎晩9時に祈るよう命じられた。

後にドイツ軍高官は語った。『毎晩ビッグベンがなるとともに、英国は私たちの知らない秘密兵器を使った。非常に強力な武器で、これに対抗するすべは我々にはなかった。』

この秘密兵器は祈りだったと私たちにはわかります。

神は、ご自身の目的を果たすためにクリスマスのお話で天使たちを用いられました。同じように、私たちの人生に持っておられる目的を果たすためにも、みこころであるなら天使たちを用いることがおできになります。なんとすばらしい事実でしょう。

では次に、クリスマスの悪い知らせについて見ていきましょう。

## 2. ヘロデは、二歳以下の子供をすべて殺すよう命じた。(16-18節)

この時、何人の赤ちゃんが殺されたのかはわかりませんが、子を殺された母親たちにとっては恐ろしい出来事だったに違いありません。あまりの悲劇に、どんな慰めも通用しませんでした。

このような出来事をなぜ神がお許しになるのか理解しがたいと思いますが、マシュー・ヘンリーの注解にある言葉が役に立つのではと思います。

マシュー・ヘンリーの注解書からの引用

「このような苦しみを受けたという理由で、殺された子どもたちがイスラエルの中でも罪の重い者であったとは考えるべきではない。むしろ、幼い子供たちが殺された事実を違った視点で見るべきである。この子供たちは殉教者である。彼らは、主のために血を流したのだ。後になって自分たちのために血を流してくださるお方のために。彼らは、幼いけれどりっぱな殉教者の軍勢だったのである。」

私たちの住むこの世は罪に冒されていて、悪人がはびこっています。悪魔の思いどおりだと思えるときもあります。しかし、神は今もすべてを御手の中に握っておられます。人類のための目的において、主権者であられることに変わりありません。

永遠に比べれば、私たちの人生ははかないものです。しかし、イエスの死が永遠のいのちを与えてくれます。

天国に着いたら、私たちはそこでイエス・キリストのために命を落とした殉教者たちに会うでしょう。そこにいるとは予想していない人にも会うかもしれません。

ずいぶん昔、宣教師たちが韓国に行きました。聖書を手にも、韓国に福音を携えていきました。しかし彼らは、韓国に福音をもたらすチャンスを得る前に、海岸で殺されてしまいました。

とても悲しいできごとです。この宣教師たちは、働きの実を結ぶ前に志半ばで命を絶たれたように思えます。

しかし、長い時を経て、宣教師たちが殺されたまさにその場所で韓国のリバイバルが起こり、その影響は今も続いています。

神は、ご自身の栄光のために命を捨てた殉教者の血を尊んでくださいます。

子供たちが殺されたことは大きな悲劇ですが、天使の働きによって、イエスの命は守られました。後に全世界の罪のために死ぬためです。

このことをしてくださった神をたたえます。

### 3. イエス、イスラエルに戻る。(19-23節)

最後の部分はまた良い知らせです。邪悪なヘロデが死に、天使がヨセフの夢に現れて、イエスを連れてイスラエルに帰るように伝えました。

ヨセフは、夢で神に導かれ、ガリラヤ地方のナザレを住む場所を選びました。これもまた、預言の成就です。

このできごとを預言と結び付けるには、士師記13：5に戻らなければなりません。士師記13：5の内容はサムソンについてですが、マタイはこれをイエスに結びつけました。

こうしてイエスはナザレの丘に戻り、そこで育ちました。

現在、ナザレを訪れると、イエスが育った村を再現したイスラエル版大秦映画村のような場所があります。村の中にはアマチュアの俳優がいて、イエスが育ったナザレの雰囲気を感じることができます。

神は、最初から最後までクリスマスのお話の著者です。

クリスマスは、イエスを自らの救い主として受け入れ、イエスを愛する人にとってのみ良い知らせです。その喜びは永遠のもので、罪と悪に満ちたこの世の人生に限られていません。

しかし、クリスマスには良い知らせと悪い知らせがあります。

良い知らせは、罪の結果として神によって下される永遠の罰から私たちを救うためにイエスが来てくださったことです。この申し出を断ると、その結果、悪魔と悪魔に属する使いたちといっしょに地獄で永遠の罰を受けることになります。

今日、神に助けを求めませんか。先延ばしにしてはいけません。今年が最後のクリスマスになるかもしれないのですから。

祈りましょう。